

Y01a 九州大学ペガスプロジェクトによる総合的宇宙教育の試み

藤原智子, 鈴木右文, 花田俊也, 山岡均, 平山寛 (九州大学)

「宇宙」は多くの人に関心を惹く分野である。宇宙を研究対象とする天文学は、自然科学の一分野でありながら、同時に星座や神話などの文化をはじめ、科学の歴史・思想などの人文科学系の内容、人工衛星やロケットなどの工学系の内容まで、様々な分野との結びつきが分かりやすい分野である。そして分野の枠に捉われない幅広い内容の授業は、学生の学ぶ意欲を高め、人間的・精神的成長を促す効果があることがアンケート調査の結果から認められている。

平成23年、九州大学では複数部局の研究者が連携し、異分野融合型の新しい宇宙教育プログラムを開発するプロジェクト(以下ペガスプロジェクト)を立ち上げた。その内容は、「宇宙」をキーワードとして様々な分野を融合した授業を展開することと、星空案内人資格制度を利用したマネジメントの実践教育及び社会貢献である。まず教育活動として、全学教育で5科目、専門教育3科目、その他(海外研修)1科目の開講を行った(平成24年度実績)。このうち、全学教育で開講した高年次教養科目「望遠鏡で見る宇宙環境」については、本年会の別講演(発表者:山岡均)で報告する。また、全学教育の少人数セミナー「星のソムリエになろう!」では星空案内人(準案内人)の資格認定講座を行っており、資格を取得した学生を中心に数多くの社会活動(主として出前授業と天体観望会)も行った。活動の場は学内のみならず、地域の小学校や公民館をはじめ、東日本大震災の被災地まで広がり、いずれも好評を得ている。そして、このような活動は社会貢献に通じるだけでなく、学生自身にも大きな変化をもたらすことがわかった。本講演では九州大学ペガスプロジェクトでの取り組みを紹介し、その教育効果について報告する。